

きらめき通信

30

相和小学校放課後教室
発行日 2018.12.11
発行責任者 野地 泰次



夢中に取り組めるということ

ある日の体育館遊び。二人の女の子が、バスケットゴールにボールを詰め込む遊びをしていました。初めは、シュートだけの遊びから、この遊びに変わってきました。

「野地せんせ〜、ほら10個入ったよ。」

「そう。すごいね。この記録は13個だからがんばってね。」

あと3個への挑戦が始まりました。1個を乗せようとする、1個落ちてしまうこともあり、ボールをフワッと入れるのが難しい遊びです。でも、数十分チャレンジし続けています。

「せんせ〜、12個〜〜。」

おっと、カメラの用意にかからなくてはと気にしていました。しかし、あと1個は、結局実現せずに終わりました。

この夢中になることがある、夢中になれる、そんな経験がとっても大事なことに繋がると考えます。十分時間をかけて取り組める子どもたちであってほしいと願います。子どもには、こういう時間が必要なのですから・・・。



こんなことも・・・ たのしいね!



こちらは、迎えを待つ子どもたちが少なくなったときに遊べる物入れの棚。下から4段あります。(いちばん下の段が写っていませんが・・・)

のどかな風景だなとも思いますし、子どもらしい一面が良く現れている一枚とも思います。同じような写真を載せていますが、子どもが好きな遊びの一つです。

高いところ、少し狭いところ、大きな穴があるところ、少し危険があるところを好む傾向は、冒険心と興味関心が高い子どもならではのことかと思えます。

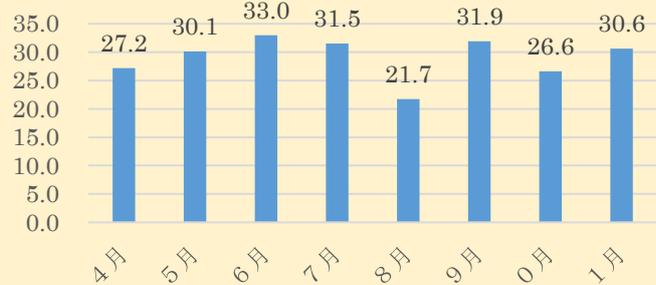


どろだんご作り

昔の子どもは(つてどの世代かな?)よく作って遊んでいました。相和に来て、子どもたちが作っているのを見ていると、とっても懐かしいような気持ちで見えていました。

相和の子どもたちは、どろに触れ、木になっている実を食べ、どこか自然派的な要素を多く持っていると感じます。「汚れる」とか、「そんなものを」といったことに左右されたくまじさを持っているとも言えるでしょう。とても大切にしていってほしい一面だと思います。

一日平均利用児童数



これは、今年度放課後教室の毎日の平均利用児童数です。

8月は、予定では一日平均約33人の予定でしたが、実際は表のとおり22人。休み中の親子の関わりを多くとっていただいたのでしょうか?? 一方、10月は、学校行事も多く、その日の利用は少なかったです。